



◇指導のねらい

- 話に興味をもち、ストーリーを理解する。
- 次に引っ張る人を呼んでくる楽しさを感じる。
- 全員で引っ張ったらかぶが抜けるという喜びを感じる。
- 自分もやってみたいという気持ちを表出する。

◇基本の使い方

教師がエプロンを身につけ、ポケットから人形（おじいさんから順番に）を出してエプロンに貼っていく。ねずみまで出てきたところがかぶが抜ける。かぶは裏返すとなべになり、「みんなでかぶのスープをおいしく食べました。」としめくくる。

また、人形の顔の上に児童の顔写真を貼り付けることで児童も物語に登場したり、児童が自分で人形をエプロンに貼ったりすることで主体的に学習に取り組むことができる。

◇指導の評価

知的障害を併せ持つ肢体不自由児（小3～小6計5名）の自立活動で、友達とのかかわりを深めることをねらいに「おおきなかぶ」のストーリーに沿って実際に友達と一緒にかぶを引っ張る活動を行った。本教材はその活動の前段階で上記の「指導のねらい」のもと使用した。児童の多くは教師と1対1でのかかわりを好んだため、教師がエプロンを身につけて行うことで、エプロンシアターに興味をもつことができた。そして「うんとこしょ、どっこいしょ」とみんなで言ったり、引っ張る動作をしたりすることで話に興味を持つことができた。また、物を注視することが苦手な児童もいたが、「次は誰が出てくるかな？」「今度はかぶが抜けるかな？」などと言葉かけをすることで、ポケットの中から人形が登場するところや、かぶが抜けるところなど、エプロンシアターに注目し「おおきなかぶ」の話を理解することができた。

そして、ストーリーを理解してから人形に児童の顔写真を貼り付け、児童を物語に登場させた。そうすることで「おおきなかぶ」のストーリーに親しみをもち、「自分も一緒にひっぱりたい」「かぶが抜けてうれしい」という気持ちを表出することができた。また、一緒にかぶを引っ張る友達を呼んだり、呼ばれた友達は返事をしたり、友達への意識も高めることができた。